



センター通信

〒123-0873 東京都足立区扇 1-12-20
TEL (03)3856-2728 FAX (03)5939-7880
URL www.wfc.or.jp

創始者長谷場夏雄の逝去を受けて

理事長 荒船 旦子



去る10月6日(火)午後4時20分に創始者長谷場夏雄が逝去致しました。享年91才でした。長谷場の一生は子ども達の為に生涯をかけて、

無償の愛を捧げたと申しても過言では無いと思います。多くの子ども達が安心して生活できる場を作り続け、今では86名の行き場のない子ども達が生活するようになりました。そして、その長谷場の姿勢や考えに共感する役職員が、その理念に従い子ども達の支援をする現在の姿となりました。

ここに、社会福祉法人青少年福祉センターの代表として、お礼を申し上げ、謹んでご冥福をお祈りいたします。

ご葬儀はご家族のみでされました。又、法人主催の追悼式も新型コロナウイルスの関係上、早くても来年の春以降になると思われますので、10月16日(金)に長谷場新宿寮1階の地域交流スペースにて、職員による追悼式を執行了いました。黙祷に続いて略歴を写真を映しながら発表をし、センターの始まりから発展に寄与された歴史を紐解きました。又、現役時代に職員研修用に編集したビデオも上映し、在りし日を皆と偲びました。実際に会ったことの無い職員が多い現在、写真やビデオを目の当たりにして各々の胸に焼き付けたことでしょう。松本長谷場新宿寮長が、自立援助ホームと長谷場の関りを通じて一緒に仕事をした職員の1人として、どのような思いで子ども達に接していたかを語り、彼の優しさと包容力の大きさを知らしめました。

最後に、理事長挨拶として私が同じカトリック信者として、40年前に父を亡くした折、マレーシアに在勤中で、病気の父に話はおろか会うことも難しかったのですが、亡くなった時に「これで、何時でもどこでも父と話ができる」と思った経験です。長谷場とは今後は会ったり話をしたりすることが出来なくなりましたが、心の内では話ができるようになります。又、「人は2度死ぬ」と言われています。1回目は実際に逝去した時。そして、その方の記憶が残った人から消えた時の2回です。私達としては2度死なせぬように、皆でセンターを支えあい、子ども達の為に努めて記憶が遠い将来まで残っていくように努めていきましょう。長谷場の気持ちが伝わってくるのは、彼の著書「かけがえのないあなたへ」です。折に触れて読んでみて下さい。読むたびに、どういうことを示唆していたのかが、経験を積んでいくうちに

違った気持ちで受け止めることが出来ると思います。同じ事象でも受け止め方が変わり、良き指針となると思います。職員が力を合わせていく事で、支援の仕方や向き合い方も良き方向に変化してくると思います。偉大な創始者が亡くなった今、どうか皆様の力を結集して、良きセンターとして発展していくように力を合わせていきましょうをお願いをして挨拶しました。

会場には、長谷場にまつわる写真や記事を並べ、職員が今まで見たこともなかった彼の偉業に触れることが出来たと思います。

長谷場の笑顔を思い浮かべつつ彼の残した言葉を噛みしめているこの頃です。主な言葉を上げてみます。

1. 「夢を持つことが大切」：誰でも夢を持つことはできません。どんな時にも夢を持ち、それを実現するために、立ち止まらず進んでいく事が大切です。夢に向かっていく職員の背中を見ることによって、子ども達も夢を持つ大切さを知ることができるのです。
2. 「センターは子ども達にとって最後の砦」：子ども達が助けを求めてくる場が無くならないように、最後の砦としてセンターを継続していけるように努め、諦めずに前進していく事が大切です。
3. 「かけがえのないあなたへ」：縁あってお預かりした子ども達や職員が、かけがえのない存在であるという気持ちを持って接していき、彼らに生きていく存在価値を教えていく事が基本です。
4. 「百万遍」：小さいころ、何回も同じことの間違いを繰り返しましたが、めげずにやり遂げた思いがあります。子ども達にも何回でも同じことを繰り返して伝えることにより、気持ちが伝わることを忘れないでください。

紙面の関係上、長谷場の残した言葉を全て書くことはできませんが、彼の子供に対する熱い思いを大切にし、彼の遺志を継いで役職員一同で力を合わせて努めて参ります。そして、センターの様な施設の必要がなくなるまで、今後も皆様のお力を拝借しつつ、亡き長谷場と共に歩んでまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



■ ■ ■ 新型コロナウイルス感染拡大禍における取り組み ■ ■ ■

..... 職員採用 人材採用委員会委員長 黒川 円

例年、青少年福祉センターでは3月より学生を中心とした見学会を開催していました。しかし今年はコロナウィルス感染症の影響で見学会、福祉のお仕事フェア等が次々の中止となり採用活動が全く出来ない状況となりました。それでも学生さんの就職活動は始まっています。そこで当法人は人数限定・検温・消毒・マスク着用等感染対策をしっかりと見学会を開催する事にしました。法人のホームページでの告知、大学就職課への見学会開催のお知らせをし

た結果、学生さんや中途採用希望の方がホームページを見て参加して頂きました。中には東京に来るだけでも心配だった8月に愛知県から、はるばる来てくれた学生さんもらっていました。見学会も10回を超え開催。30名以上の方々が法人に興味を持ってもらい来て頂きました。結果、中途採用で5名、令和3年度新卒者に於いては6名の内定者を出す事が出来ました。今後も継続していき良い人材を確保していきたいです。

..... 職員研修 人材育成委員会委員長 野館一郎



新型コロナウイルス感染症の影響で、例年通りの研修が実施できない状況です。昨年度までは経験年数別に職員を集め、集合型の研修を実施してきました。しかし、

今年度は密接した環境を避けるために集合型の研修は中止し、課題提出型の研修を実施しました。法人内の研修のねらいのひとつに、同期職員同士の交流がありますが、課題提出型の研修では、このねらいが達成できずにいるの

が現状です。

最近、外部の会議などではZOOMによる会議が増えてきたこともあり、10月より法人内でZOOMのアカウントを取得しました。人材育成委員会では、法人内の研修もZOOMを活用することを考え、10月8日にZOOMを利用した新任職員研修を実施しました。長谷場新宿寮、清周寮、あけの星学園をオンラインでつなぎ、パソコンの画面をスクリーンに映し出すことにより、離れた場所でも他の職員の発表を見聞きすることができるシステムで好評でした。

新型コロナ禍で例年通り研修を実施することは、今後も難しいと思いますが柔軟に対応し、人材育成に取り組む所存です。

..... ZOOM会議 人材育成委員会委員長 野館一郎

10月の職員会議から、あけの星学園ではZOOMによるオンライン会議を開始しました。4月より職員会議を中止し、議事録を文書回覧することで対応してきましたが、各ユニット、専門職に分かれてリモートで会議に参加し、3密を避けながらできる会議をと考えて実施に至りました。パソコンの画面ではありますが、全員が一同に顔を合わせて会議が出来るようになったことは、職員間の意思疎通を図る上で大きな意味があると思っています。事業所を跨る会議にも導入し、委員会やPJ会議にも活用しています。

また、学校等の外部機関でもZOOM等のオンラインアプリを利用する機会が増えてきており、児童の支援を行う

上でもオンラインの対応は離せないものになってきました。ZOOMだけでなく新型コロナウイルスの影響による「新しい生活様式」を私たちの業務にどのように取り入れていけるか考えることが求められており、より良い児童への支援や円滑な業務運営をおこなう上でも大切なことだと考えています。



..... 成人式 アフターケア委員会副委員長 副島有理

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、法人行事や各事業所の日常生活だけでなく、法人を巣立っていった卒業生たちの生活にも多大な影響が出ております。

毎年開催している法人の成人式についても同様で、開催の有無についてアフターケア委員会で慎重に議論を進めてきました。議論の中で成人式に対する思いや、新成人への思い、生活様式が一変した状況下でも、新成人の励みになりたいという職員の思いにより、例年とは違う形で成人式を開催することと致しました。

日程は例年どおり1月の第二週の土曜日を予定しておりますが、後援者・関係者の参加見送り、加えて新成人1人あたりの招待客を6名から1名に縮小し、式典も1時間短縮して開催することを考えております。昨年度よりはささやかな式典とはなりますが、心のこもった成人式となるよう取り組んでまいります。

参加を楽しみにされていた関係者や後援者の皆様方を始め、ご寄贈者の方々には、ご理解を頂ければ幸いです。

自立援助ホームの児童指導員の一日をご存じですか

施設で職員がどのように子ども達と接しているのかをご存知ない方もいらっしゃるかと思います。本部職員が研修に行ったことで感じたことをお知らせし、児童指導員の仕事内容を少しでも理解・共感して頂けたら幸いです。

<一日の流れ>

6時 起床・朝食準備

朝早くから職場・学校に行く子どものため、6時頃起床。ボリュームのある朝食だけでなく、食べやすいピザパンや中華まんなども用意します。

6時～9時 朝食

子ども達はそれぞれの出発時間に合わせて朝食をとります。職員は、子ども達のスムーズな出勤・登校をサポートします。

9時～11時 寮内清掃

後片付け、寮内の清掃を行います。

11時～13時 昼食準備・昼食

昼食は、余ったおかずも活用し、ワンプレートランチの形式も多いです。仕事が休みの子どもと職員と一緒に昼食を取ります。

13時～14時 引き継ぎ

「引き継ぎ」は、職員間での情報共有の場です。忙しい業務の中でも、子ども達の言葉や様子をしっかりと把握し、次のシフトに入る職員に情報を伝達することで「一枚岩での支援」を実践します。

14時～16時 食材の買い出し

職員と子ども分の食材は、業務用の大容量食品を活用してコストを抑え、味の決め手の主菜は美味しいと評判のスーパーへ遠征して購入します。限られたコストの中で、少しでも美味しい料理を提供したいと努めています。

16時～18時30分 夕食の準備

一例を挙げると、牛肉のケチャップ炒め、ポテトフライ、茹でブロッコリー、マカロニとハムのサラダ、玉葱スープと栄養を考え乍ら準備します。男子寮では、ごはんは炊飯器2台に8合ずつ(ご寄付で頂くお米も大活躍しています)炊いています。

18時30分～21時 夕食

夕食を美味しく食べる子ども達の側にいて、優しいまなざしで見守りつつ話をしたりする職員が子ども達と共に過ごす重要な時間です。

21時～入浴・洗濯・消灯

子ども達は入浴や洗濯を済ませます。職員は、施設内外の見回り、施錠確認を行います。1部屋ずつ周り声をかけて、消灯します。毎日、決められた時刻に消灯することで、就寝する習慣が身につく、翌日の就業・就学の安定に繋がります。

<児童指導員の仕事に接して>

事務職として採用から半年後の夏の終わりに、自立援助ホームにて、現場業務を学ぶための研修を受けました。1泊の研修でしたが、児童指導員の仕事の一端を感じ、知ることができたので、紹介させていただきます。

感じたことは大きく2つあります。1つは職員の多忙さです。基幹の業務は子どもの支援ですが、生活を支えるための炊事や掃除が毎日の業務としてあります。子ども達と職員分の食事作りと広い寮内の清掃は時間を要するので、効率よく進められるよう各職員が工夫をしていました。出張や法人内の委員会等がある日だと職員も少なくなるため、業務効率だけでなく臨機応変な対応も求められます。その中で記録等の事務作業もあることを考えると、業務量の多さに驚くばかりでした。また、子どもへの対応が深夜に及ぶこともあり、身体的な負担の大きさも感じました。

もう1つ感じたことは、子ども達に対する職員の真摯さです。研修初日の夜、ある子どもの1日を振り返る時間に立会いました。対応した職員は、その子から話を聞く中で問題点を引き出し、それを否定することなく本人に考えさせて気づきを与え、答えを導くように論じていきました。そこには「自分たちはあなたを見捨てたりしない」というのが根底にあると感じられました。引き継ぎでの報告や話を聞くだけでは想像することしかできませんでしたが、心理状態を読みながら課題を提示していくという児童指導員の仕事を目の当たりにし、実感として強く残りました。

新入職員研修時に「児童指導員は崇高な仕事です」という先輩職員の言葉がありました。法人理念にもある次世代の担い手を育てる一端に立合い、その言葉は決して大げさではないと改めて感じています。皆様にも少しでも伝わり、共感していただけたら嬉しく思います。

児童養護施設 暁星学園のようす (定員 男女 30 名)

新型コロナ禍で経済活動が徐々に再開を図る中、子ども達も段階的に学校への登校を再開し、通常の生活に



戻りつつあります。これまでの生活と全く同じ状況ではありませんが、子ども達は一生懸命に学業に向き合っています。学友と過ごす学校生活が充実した日々をもたらし、子ども達を前向きにしてくれていると感じています。

ステイホーム中は園内菜園に力を入れて、子ども達と



一緒に野菜作りをしました。トマト・きゅうり・なす・ゴーヤなど多くの野菜を栽培し、日々、水やりをしながら子ど

もと一緒に食物の育つ課程を観察することができました。収穫した野菜は食事として提供し、子どもも大人も美味しく頂きました。食育の一環として食物の大切さをじっくりと学べる良い機会となりました。

園内行事では夏に近隣の都立公園でバーベキューをしたり、学園内で水遊びや夏まつりの開催をしたりと限られた状況の中でも楽しめることを子ども達自身が考え、子ども達を中心となって実施しました。このような苦境でも子ども達は相変わらず屈託のない笑顔を見せ、子どもも職員も充実した時間を過ごすことができました。

子ども達がこれまでとは違う状況を受け入れ順応していく姿は逞しく、私たち大人に活力を与えてくれています。子ども達のこれからが安心・安全で心豊かであるように願いつつ、支援に尽力して行く次第です。



児童養護施設 あけの星学園のようす (定員 男女 20 名)

新型コロナウイルス感染症の影響で3月より外出行事を中止しておりました。しかし、私達には子ども達に様々な体験をさせたいという思いがあり、7月から感染防止対策を十分に講じた上で、外出行事を再開しました。夏休みには各フロアごとにバスツアーに参加しました。女子フロアは山梨に行き、シャインマスカットの食べ放題や信玄餅工場見学、男子フロアは静岡に行き、



クルーズ船でかもめの餌やりなどを体験しました。こ

でまりホームはよみうりランドに行き、思いきり遊びました。久しぶりの外出行事であったため、子ども達も楽しむことができたようで、帰ってきてからはたくさんの思い出話を聞かせてくれました。いつもより短い夏休みでしたが、新型コロナウイルス拡大防止の中、園内で職員が知恵を出し合い行事を企画し、子ども達へ様々な体験をさせることが出来たと思います。

今年度、高校を卒業する子どもが2名と中学校を卒業する子どもが3名います。中学3年生は高校進学に向けて、希望する学校の説明会への参加や通塾をして希望の高校に合格できるよう努力しています。高校3年生の1名は大学進学を目指して先日、入学試験を受けました。もう1名は、就職活動に励んでいます。それぞれの目標に向かって頑張っている子ども達を学園全体で応援していきます。

これから寒さが厳しくなるため、新型コロナウイルス対策の継続はもちろんのこと、インフルエンザや風邪の流行にも十分注意しながら子ども達への支援を行っていきます。



自立援助ホーム 長谷場新宿寮のようす (定員 男子 15 名)

新型コロナウイルスはいまだ猛威を振るっておりますが、寮生・職員一同、強く逞しく生活しています。幸い、感染者は発生しておらず、毎日を笑顔で過ごせているのも、皆様の多大なるご助力のおかげと感じております。

さて、寮内の様子ですが、上述のように新型コロナウイルスは未だに世界各地で流行しており、毎年恒例の行事等を自粛せざるを得ない状況が続いております。寮生たちも楽しみにしていたGW行事、夏の旅行も中止となり、日々の活力を養う余暇の時間を十分に取れない状況を少しでも打破する



べく、長谷場新宿寮の「おうち時間」として、寮内でできることを考えました。その結果、「隅田川花火大会ライブビューイング観賞会」「映画観賞会」を実施することができました。今年は隅田川の花火大会自体がライブビューイング形式でテレビ放送されており、こうした時期でも夏の風物詩でもある花火を味わえるよう、寮



の食卓にプロジェクターとスピーカーを配置して観賞しました。その日の夕食は焼きそば、お好み焼き、フランクフルト

をプラスチック容器に入れて用意し、床に敷いたブルーシートの上で食べ、屋台気分を楽しみました。映画行事は、午前中から映画を4本上映し、夕食にはピザとオードブルを用意して、こちらはパーティーのような雰囲気を楽しみました。寮生たちのみせる屈託のない笑顔が印象的で、職員としても何とか行事を開催できないか考えを重ねて本当に良かったと感じました。

今年は忍耐力が試される年となりましたが、この状況乗り越え、来年こそは活気ある社会に戻るよう、微力かもしれませんが、寮生・職員一同、邁進していきます！

自立援助ホーム 清周寮のようす (定員 女子 15 名)

職員、利用者の検温や共有部分の消毒を行い、皆が元気に過ごせるよう、日々新型コロナウイルスの感染対策に取り組んでいます。

新型コロナウイルスの影響もあり、今年は外での行事が出来ない状況が続いています。その



様な中でも、子ども達に楽しんでもらえる行事を開催してきました。7月と10月には映画行事を行いました。大きなスクリーンをリビングに設置し、2日間に分けて計6本の映画を上映しました。7月の映画行事1日目では、料理のリクエストを募り、希望に沿った料理を提供し、食を通して日々のストレスを癒してもらえるようにも取り組みました。10月の映画行事では、1日目はお寿司、2日目はファーストフードを注文し、非日常を味わってもらうことで、日ごろの疲れを癒してもらえるように考えました。思うように外出が出来ない状況の中でも、子ども達の満足度は高い行事となりました。

8月には、花火行事を開催しました。ほとんどの子ども達が参加し、ウッドデッキの周辺で手持ち花火を楽しんでいました。海や山へ出かけていくような夏らしいことが出来なかった子ども達の皆に、花火を通して、夏らしさを感じてもらえた行事になりました。今後は、10月末にハロウィンと防災訓練を兼ねた行事を予定しています。

来年に向けて、進学を目指す児童、就職活動を行う児童が頑張っております。また、自立について考える児童も増えてきました。進学や就職に向けて、職員も一緒に考え、子ども達が目標を達成できるように、日々支援しております。今後も、子ども達が目標をもった生



活を継続出来るように全職員で、支えていきたいと思っております。

自立援助ホーム おうぎ寮のようす (定員 男女6名)

職員も寮生も新型コロナウイルスの感染症対策に努め、寮生は仕事や学校に行きながら元気に過ごしております。皆様からもマスク等のご寄付をいただき、皆様に支えられていることを実感するとともに温かい心遣いに感謝しております。現在、寮生の半数以上が学生で、仕事と学業を両立しています。今年は新型コロナウイルスの影響で寮生にとっては例年と違う夏季休暇となりました。寮で過ごす時間が多かった寮生も新学期が始まり登校日が増え、仕事と学業の両立で大変な面もありますが、少しずつ日常が戻ってきて充実した日々を送っているように感じます。

おうぎ寮祭も開催できず行事が思うように行えない中で、夏らしい楽しい思い出になればと思い、8月22日(土)にBBQ 行事を行いました。熱中症対策も考えて室内での実施となりましたが、夏祭りや花火大会が軒並み中止という状況で少しでも季節感を感じてもらえたと思います。普段仕事の関係で同じ時間に食事をするのが少ない寮生からは、寮生同士で会話を楽しんだり美味しそうな写真を撮って見せ合ったりと、嬉しそうに食事をする姿が見られました。今後も季節感を感じられる行事や寮生同士が交流できる行事、寮生1人ひとりの希望に沿った個別行事を考え、共に楽しい思い出を作っていきたいと思います。

今も尚、毎日200人近くの新規感染者が出ており新型コロナウイルスの収束はまだ見えませんが、日常生活が戻りつつあることに安心せず感染症対策を継続して行い、寮生が健康で楽しく、安心して寮生活を送れるよう見守り、支援していきたいと思います。



山中湖林間寮のようす

新型コロナウイルス感染拡大の影響を多大に受けて、利用者が激減しました。特に、他施設の利用数が4グループのみと激減し、家族連れが23グループとなり9月末現在で700名弱でした。やはり、首都圏の緊急事態宣言や都県境を超えての移動の自粛依頼が、来所者数に反映されたのだと思います。

来所された方々には、検温・アルコール消毒をお願いしました。お風呂もグループ別に入れるように、いつも以上に開放する個所を増やしています。林の中での森林浴や広いグラウンドから空一面の満天星を見たり、都会では味わうことのできない空間に浸って頂きました。多くの方々が自粛生活の続く中、林間寮から出ることなく過ごされました。少しでも気持ちがゆったりとして、通常の生活に戻られても、ここでの思い出が残れば良いと担当の職員が工夫を凝らしてくれています。

いつもは、8月には泊りがけで定例会議を開いていたのですが、今年はそれさえもできず、2回ほど理事長同士で相談をしたぐらいでした。それでも、施設をどのようにしたら良いか等の実質的な打ち合わせができました。年末までには、2段ベッドをなくして、高齢児もゆったりと眠れるように準備を進めています。都会の喧騒を忘れ、引きこもり生活から少しでも解放感に浸って頂ければと思います。環境整備に努めて参ります。



編集後記

創始者長谷場夏雄先生がお亡くなりになりました。法人事務所の事務員として、現場で泊りの研修を受け、各施設に今も息づく長谷場イズムを体験した矢先の出来事でした。法人内追悼式に出席し、長谷場先生の残された理念を今後も大事にしていきたいと強く思います。(瀬尾)